

「口の巧い橋下市長が相手の討論では分が悪いと思いますが？」

平成 27 年 5 月 5 日

●かつサンドさんからの質問

初投稿です。毎回楽しく見させて頂いています。1つ質問があります。橋下市長がよく呼びかけている「討論」についてです。有権者にしてみたら賛成派反対派が討論するのはわかりやすくていいと思うのですが一方で橋下市長のような口が上手い人が詭弁を弄することで討論で勝ってしまうことがありますという悪い点もあると思うのです。西田先生は討論についてどのようにお考えなのでしょうか聞かせてください。

●西田昌司の答え

討論は、「五箇条の御誓文」にあるように「万機公論に決すべし」であり、これは日本の古来よりの大事な伝統です。国会や党内での議論は全てそうあるべきなのですが、そのためにはルールが必要であり、自分勝手に自分の言いたいことだけを発言するようなことがあってはなりません。

国会の場合は、委員長が質疑者を指名して、委員長が政府側に答弁を求めます。発言者以外が勝手に話してはいけませんし、時には退場させられることもあります。品位に欠ける発言や出鱈目な答弁に対しては、正常な議論となるべく委員長が注意を促して会の運営を仕切ります。このように、ジャッジを設けて、ルールに則った議論をして始めてまともな議論となります。

これに対して、橋下さんは自分の言いたいことを一方的に話しますし、矛盾点を突かれようものなら論点をずらしてはぐらかし、自分勝手に土俵を次々としらえて徹底的に相手を言い負かすという、まさしく言葉の乱闘といったやり方をします。とても公職に就く人物の振る舞いとは思えません

し、このような相手と討論をしても失望と憤りを感じるだけでまともな討論になるはずもなく、二度と相手にはしたくないと思うものです。

2年以上前に、私と藤井聡先生が「西田ビジョン」で、大阪維新の会や橋下さんに関する対談をしています。この中での藤井先生の発言に対して、今ごろ橋下さんが記者会見で「(藤井先生が所属する) 京都大学や国会に問題を提起する」との発言をし、大阪維新の会は藤井先生に「大阪都構想に関する公開討論会の申し入れ」をしています。藤井先生は討論には応じていませんが、なぜなら、討論したとしてもまともな討論にはならないことが最初からわかりきっているからです。もしも討論するのであれば、ジャッジを設けて、きちんとしたルールに則った上での討論でなければ意味がありません。

橋下さんのやり方を見て溜飲を下げた大阪市民も少なくないのですが、一方で不満・不安を感じる人も沢山いらっしゃいます。橋下さんには公職者としての自覚をしていただきたいと思います。

●佐藤ひとみさんからの質問

先生は、どんな音楽が好きですか？お気に入りの CD があったら、教えてくださいませんか？

●西田昌司の答え

私はあまり音楽を聴かないのですが、高校時代に好きだったのはユーミンでした。しかし、今はユーミンを卒業して、最近はクラシックをたまに聴きます。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>